

令和3年度フェローシップ支援事業&次世代プロジェクト 採択者合同定例シンポジウム 開催報告

経営戦略本部 PhDリクルート室

開催日：2022年3月11日（金）14:00~16:40

開催場所：新潟大学中央図書館ライブラリーホール（一部オンライン）

参加人数：127名 内訳：

新潟大学の学生	70名
新潟大学の教職員	44名
他大学の学生・教職員	8名
産業界	5名

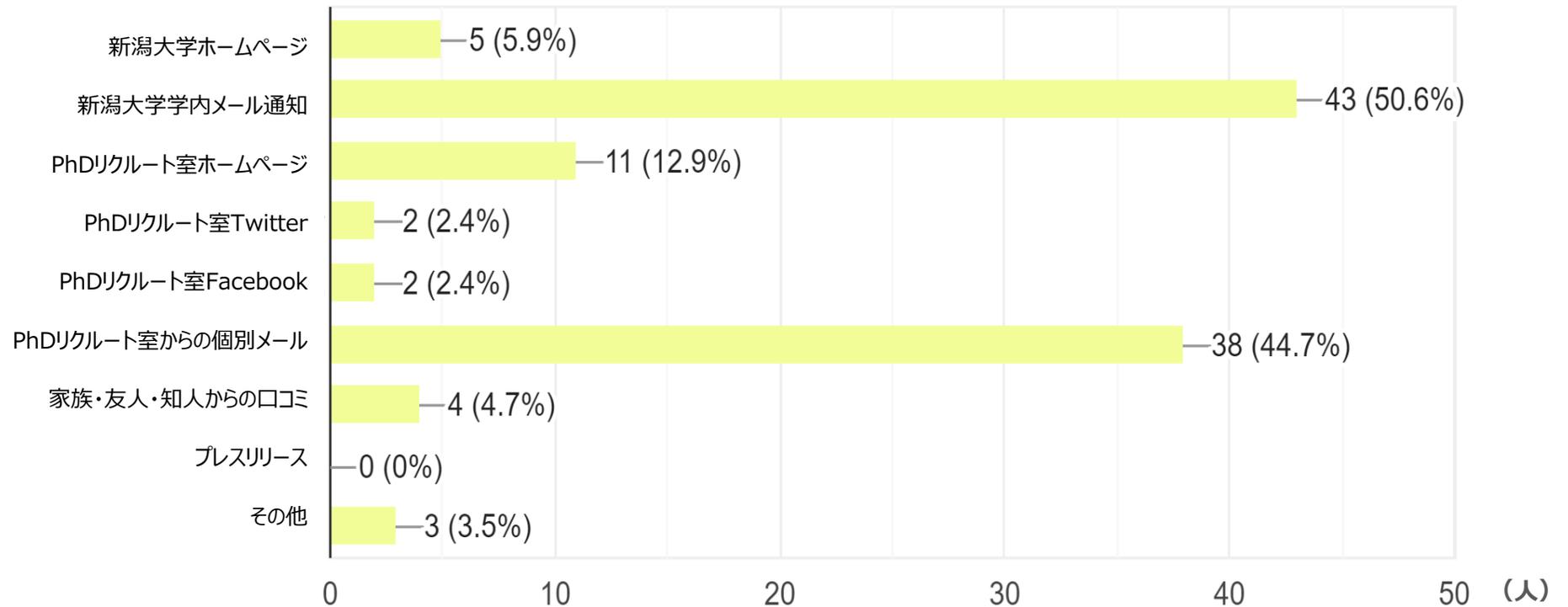
参加方法：

対面	54名
オンライン	73名

回答者数：85名（参加者127名）

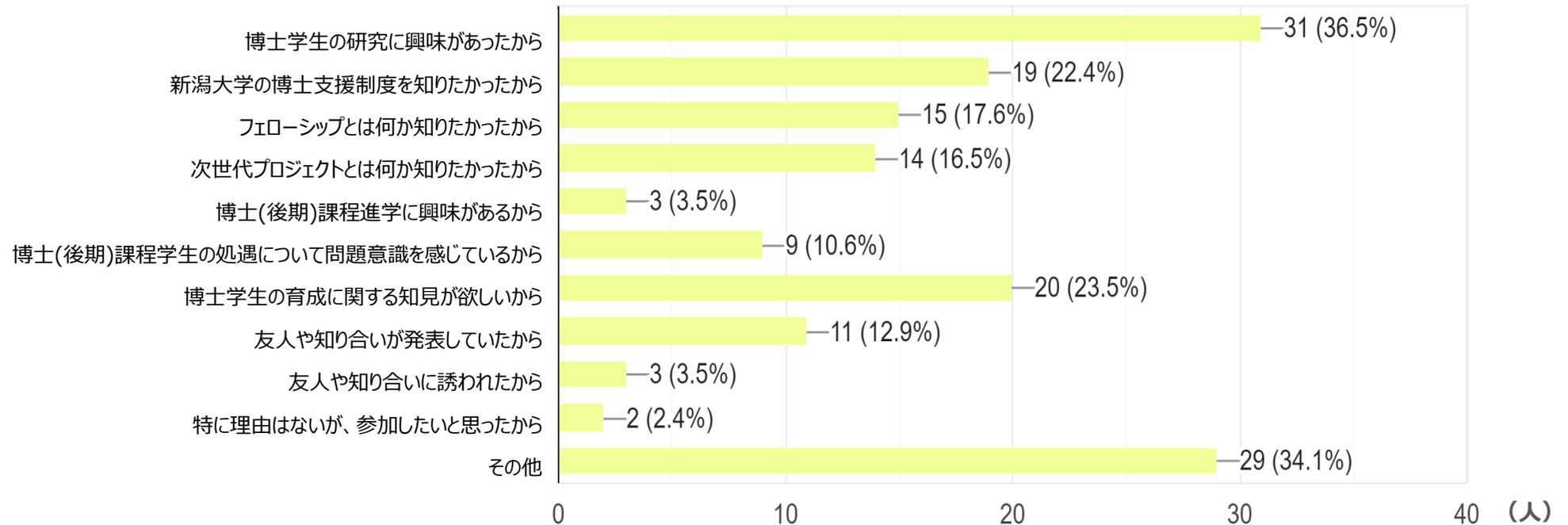
1. シンポジウムをどこでお知りになりましたか？（複数回答可）

85件の回答



2. シンポジウムに参加された理由をお聞かせください。(複数回答可)

85件の回答

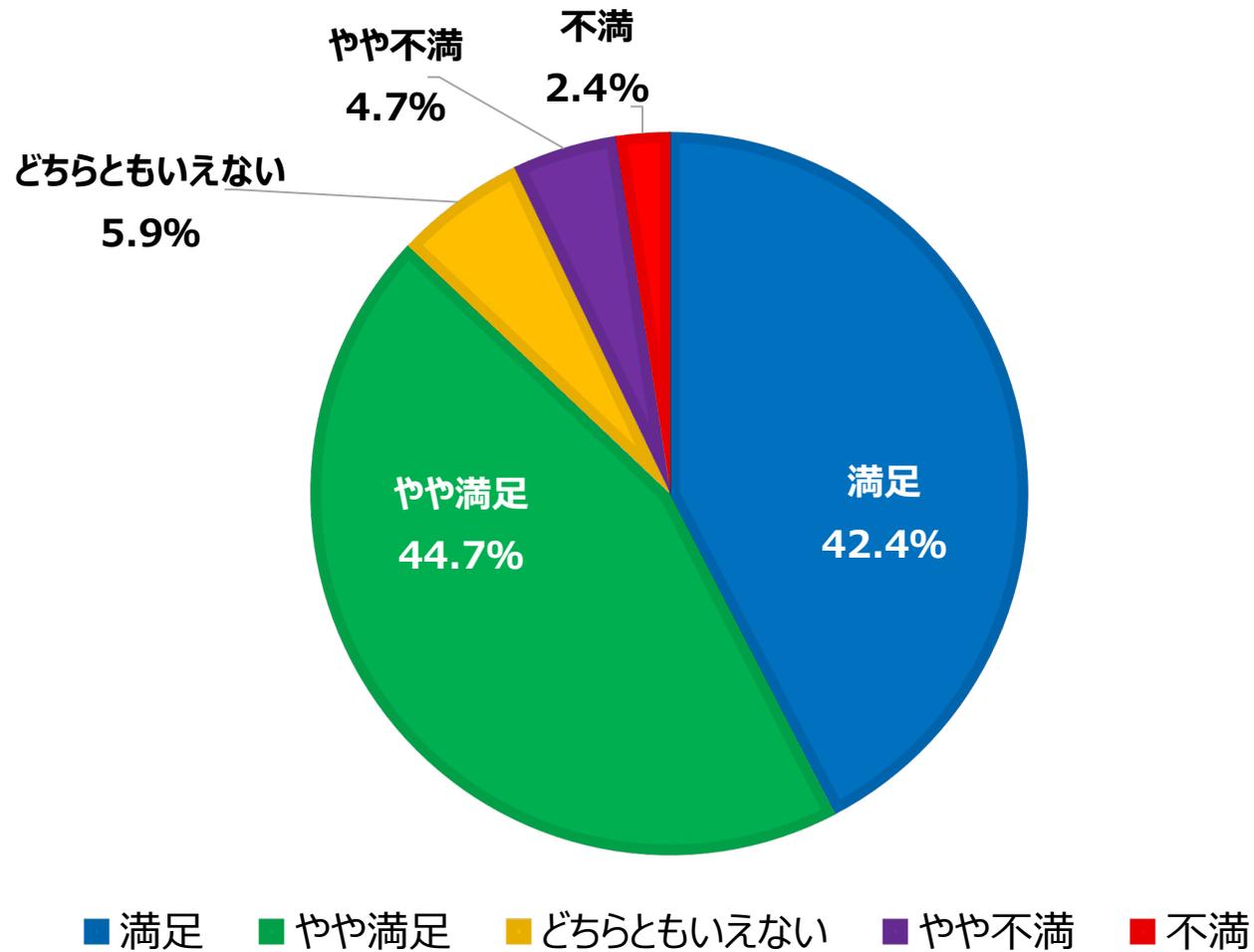


「その他」

- ・フェローシップや次世代プロジェクトの採択生及びその指導教員だから。
- ・次世代プロジェクト令和5年度予約採用者になったので、先に次世代プロジェクトに採択された方々の実際を知りたかったから。
- ・フェローシップ生や次世代生の発表をとくに楽しみにしていたから。
- ・来年度から研究室所属学生がフェローシップに採用されたため。また、次世代プロジェクトの共同研究受け入れ予定のため。

3. シンポジウムの満足度を教えてください。(複数回答可)

85件の回答



3で答えた理由をお聞かせください。

研究結果の発表をご本人から聞いてよかった。
幅広い分野の研究に関するポスターを拝見し、充実して当大学の研究活動を実感でき、うれしかったです。フェローシップ採択者の本音を聞き、とても参考になりました。横つながり・異分野交流の重要性に同感です。
新潟大学の考えている方向性がよく理解できた。また、非常にいい取り組みであることを再確認できた。
PhDリクルート室とリサーチサポート室、指導教員の先生方が一丸となって支援をしていることがよく伝わりました。また、特にパネルディスカッションは、飯島先生から出されるテーマが良かったため、学生さんの意見に加えて企業の方や指導教員の方の考え方もうかがうことができ、とても参考になりました。あとは、パネリストに文学の先生がいらっしゃるのがインパクトがありました。
他分野の研究について知ることができたため。(学生)
所属分野の先輩も含めて、先生方の発表が聞いてよかった。聞き取りづらいことがあった。(学生)
良い刺激にはなった。発表者以外も何らかの形で参加できる形態のプログラムも欲しかった。また、パネルディスカッションでは、プロジェクトに対する疑問や要望等、もっと突っ込んだ内容の話題が聞きたかった。(学生)
いろんな学生の研究内容や支援者としての取り組みについて知ることができたから。(学生)
短い時間でも院生の研究発表が聞いた。また、大学執行部の本プロジェクトに対する思いが伝わってきた。
発表者の内容が素晴らしく同世代としてとても勉強になった。(学生)
今回フェローシップや次世代プロジェクトに採択された方々の研究やお話を聞くことができて良かったが、質問等交流ができれば、なお良かった。(学生)
まず、シンポジウムのポスターの作成によって、この半年で自分の研究の一部をまとめることができました。次に、他の学生たちの研究姿を見て、自分も頑張る気ももっと強くなった。また、異分野の知識に関しても、少しでも視野が広がりました。(学生)
新しく始まった次世代にどんな博士学生がいて、どんな研究をやっているのか知る良いきっかけになった。(学生)
学生発表に対する質疑応答の時間があったほうがよかった。また、学生同士で話すことができるような交流の時間もあると良いと感じた。

多様な発表内容が聞けるのは満足でした。（学生）

発表は非常に興味深いものでした。とくに医療系の研究や、文学研究は初めて目にするもので非常に興味を惹かれました。ただ、オンライン発表者のスライドにおいて、明らかにフルスクリーンで表示されることを想定した文字サイズで資料を作成しているのにウィンドウ表示でカメラ映像を表示していたせいで、会場ではまともに資料の文字を認識できませんでした。状況をみて表示の仕方を変更することはできなかったのでしょうか？忙しい中、資料を作成した方が非常に可哀想に見えました。また、私の理解が間違っていなければ、本会は採択者は全員参加であったと思うのですが、採択者が大勢参加しているのに対して、内容はこれから制度へ応募する方が見るべきものであると感じました。1時間近い拘束に対して既知の情報ばかりで、あの場でやる内容であったのかは疑問でした。どちらかといえば、一方的にディスカッションを見せられるよりは同じ採択者同士でのコミュニケーションの場のほうがプロジェクト全体の趣旨にも沿っているのではないのでしょうか。（学生）

音声が届かざらう内容が半分位しか理解できなかった。

せっかくのシンポジウムなのに、参加者から意見を述べる機会が全くなかった。博士後期課程の待遇改善に関する問題は在籍時だけでなく、修了後にも付きまとう問題であるので、そのテーマについて話し合う機会が欲しかった点で不満と回答する。。（学生）

研究内容の発表について、とても勉強にさせていただきましたが、司会の声が幅聞かえなかったのとパネリストの方の声がこもった感じで聞き取りにくかった。

異分野の皆さんの発表を聞いて、いろいろ勉強になりました。皆さんのような立派な博士になりたいです。（学生）

異分野の研究を知る機会になった。（学生）

特に理由なし（シンポジウムとしては、これが標準的な形態かと）

博士課程の院生支援について、多くの情報を得る事ができました。非常に参考になりました。

交流が少なかった。（学生）

学びがあった。（学生）

まずは新しい試みとしてとても意義深いシンポジウムと感じました。また企業の方などの外部審査委員の方もお招きして、画期的な内容だったと思います。

本事業、本プログラムに期待される成果など、新潟大学が学外に発信したい内容が2時間40分の間にコンパクトにまとめられ、素晴らしい構成であった、と思います。

日々の生活費や研究費などを支援していただけるのは非常にありがたい。しかし、年間180万の生活費と20万の研究費で十分かのような内容であったが、そのような議論だと、この先日本に未来はないと思う。(学生)
学会のポスター発表のように、自己PRポスターを発表する時間があればよかった。(学生)
非常に詳細。(学生)
質疑応答の時間が設けられていなかったため。
自身以外のフェローシップ生や次世代生が1年間活動して得たものなどを知ることができたため。(学生)
博士学生の研究発表が大半でしたが、他分野・一般向けを意識した発表形式になっておらず、わかりにくかった。
学生と先生とスタッフが交流するのは良いことです。学生の考えと観点を知る上で、それは良いです。(学生)
他分野の研究内容や採用者のモチベーションを知ることができたため。(学生)
Web掲示されたポスターの画質が悪く読めなかったため。(学生)
多くの領域融合的な研究を聞くことができたため。(学生)
パネルディスカッションで会場とのやり取りができたならもっと良かったと思います。時間の制約があることは分かっていますが。
講演については満足でした。他のポスター発表について、Zoomなどの何らかの形で直接交流できると良いなと思いました。
新潟大学の考えている方向性がよく理解できた。非常にいい取り組みであることを再確認できたので。
研究発表は面白かったため。(学生)

4. その他、本事業へのご要望（博士人材へ期待すること、新規プログラムや企画の実施など）を教えてください。

このように実際に参加されている方々の研究について発表をお聞きし、交流できる場がよりあると良い。（学生）
いわゆる「文系」の院生への拡大。
研究費や給与の援助は必要である。
卒業後の業績等に応じた追加支援。
在学時のみに支援がなされるプログラムには、賛同できない。修了予定年度に採択されたD3・D6（医歯薬）は、支援期間に差異があるという観点で、他の採択者と比べて相当に不遇である。特に、ポスドク問題のことも考えると、修了後であってもアカデミア等での就職を希望する採択者には、採択年度から最低3年などの期限付きで支援を継続して欲しいと切に思う。近年、他の大学では、自大学を出身とした博士人材を期付きテニユア教員として採用している例もあり、本学でも同様の試みが進むことを願っている。本プログラムは産学官で活躍できる人材育成を謳っておられるので、本学の教員人事側との連携を進めていって欲しい。以上、是非、ご検討いただきたいと思います...！（学生）
オンライン参加が可能なジェネリックスキルセミナーの回数が増えると大変助かります。（学生）
博士課程修了後の進路についての情報提供。（学生）
企業と博士人材との交流会に機電系企業をもっと増やして欲しい。
文系の博士後期学生をテーマにしたもの。（学生）
すでに魅力的なプログラムが実施されていると思いますが、企業マッチングなどで社会科学系の学生は繋がりを見だしにくいのではないかと感じています。現状に加えて、本来の研究テーマの特性も踏まえた多様なプログラムが創出されることを期待します。
支給額の増加、研究費の増加、諸雑務の簡素化、学生が発注可能なように予算システムの変更、授業料の自動免除等。また、色々なイベントを企画されているが、いまいち事業がどこを目指しているのか不明なので、しっかりと方向性を定める必要がある。（学生）
新潟大学の博士支援制度と若手研究者育成をどのようにリンクさせるのかの展望（今後の制度設計）についてお伺いしたかった。

博士正規3年課程の学生だけでなく、卒業が遅れた学生にも志願が続けられれば良いと思います。特に、生物系列専攻は研究に必要な時間が多く、卒業が遅れる場合が多いです。彼らが卒業するまでの支援もなされなければならないです。（学生）

キラキラ学生、イケイケ学生、次世代の日本をけん引する若手研究者を輩出できるようなプログラムとなってほしい。

旭町キャンパスの大学院生と五十嵐キャンパスの大学院生の交流が増えれば面白いと思います。（学生）

アカデミアの育成は、アカデミアにしかできない最優先事項であることを自覚させるような企画運営。

せっかく新潟大学に在学している日本語が堪能でない留学生を本事業の輪に入れると研究の質・新しい発見が増えると思っています。

日本全体の科学技術力の向上、博士人材の育成といった点において、共同研究ではなく、人材育成という観点での「産学連携」が必要と考えております。色々な大学でそういった取り組みが増えていくと、大学-企業双方にとってwin-winな形になるのではと期待しております。

今後の会議も、今回の定例会のようにZoom併用を希望。（学生）

是非、継続してほしいと思います。 そのうえで企業や官公庁、NPO等でのインターンのような仕組みも取り入れられるとより良くなると思います。

学内だけでなく、社会、産業との異文化交流をより推進してほしいです。